北京消息第64号

新潟市北京事務所
中国北京市朝陽区建国門外大街 26 号
長富宮弁公楼 2014 室
http://city.niigata.org.cn/
11 月 30 日発行

報告１　2016 中国国際福祉博覧会へ出展支援

10 月 17 日（月）から 19 日（水）の３日間、北京市中国国際展覧センターにて 2016 中国国際福祉博覧会が開催され、公益財団法人にいがた産業創造機構（NICO）が設置した新潟ブースに新潟県内の４企業が出展しました。新潟市北京事務所は NICO のブース運営の支援とともに、出展企業の通訳として支援をさせていただきました。

乳幼児や高齢者、身体などに障がいを持つ方々を対象とした展示ブースが数多く立ち並びました。食品、乳幼児向け遊具、補聴器、杖、義肢装具、介護補助用具などの展示物の中、特に多くの企業が展示していたものが車椅子です。会場には業界関係者だけでなく、一般来場者として車椅子の方々も多く来場しました。

現在、中国の福祉分野では、高齢者人口、特に介護高齢者人口の増加が大きな問題となっています。中国国務院老齢工作委員会の予測によると、中国で介護を必要とする高齢者は 2020 年には 4,200 万人に達するとのこと。これに対処していくための高齢者産業の発展が今後進んでいくことが見込まれます。（大泉）

越後工業株式会社の車輪が開く画期的な車椅子「輪助（わすけ）」を社長自ら来場者に紹介。こだわり抜いた「世界一高い」車椅子は多くの方々の注目を集めました。

報告２　新潟市議会中国訪問団の青島市・延吉市訪問に同行

10 月 18 日から 21 日まで、新潟市議会訪中団に同行し、山東省青島市、延辺朝鮮族自治州延吉市を訪問しました。青島市での訪問先は、青島農業大学、青島市万里江茶業有限公司、日本国駐青島総領事館、青島市人民代表大会常務委員会、延吉市での訪問先は延吉市開発区に進出している日系企業２社、延辺朝鮮族自治州人民代表大会常務委員会でした。

青島市人民代表大会会見の様子

延辺朝鮮族自治州人民代表大会にて

青島農業大学では、李中華合作社学院長から農業分野では今後も日本の技術に学ぶことが多いこと、青島総領事館では遠山茂総領事から日本の農業技術や日本製品の質が評価されていることなどを伺い、中国との経済交流の可能性の大きさを改めて感じました。

また、青島市人民代表大会常務委員会（呉淑玲副主任）及び延辺朝鮮族自治州人民代表大会常務委員会（車光鐵主任）では、これまでの交流を振り返るとともに将来に向けて、更に交流を深めて行くことが話し合われました。なお、高橋三義議長から両人民代表大会宛て、篠田昭市長の親書が手渡されました。（神田）

報告 3　第 3 回新潟友好聯誼会総会・懇親会開催

11 月 5 日（土）、第 3 回新潟友好聯誼会総会･懇親会が新世紀日航飯店で開催されました。来賓として、北京新潟県人会山口忠弘会長、新潟市斎藤博子観光・国際交流部長、友好都市であるハルビン市弁公室の周勝濱副処長らを迎え、合わせて 40 名余りが参加しました。

会員の方々は、新潟での思い出話、帰国後活躍している分野などの自己紹介を行った後、自由に交流を深めました。懇親会では抽選会も行い、新潟のお土産を景品として抽選者にプレゼントしました。新潟市北京事務所近藤前所長が聯誼会に景品を提供してくださったほか、新潟県食品メーカーのブルボン北京事務所も今回の聯誼会のために参加者全員にお菓子を提供してくださいました。

新潟友好聯誼会は 2014 年 10 月に成立しました。会員は、新潟で留学や生活をした経験がある新潟と縁のある中国の方々です。今年、新会員が 10 名増え、会員総数は 100 名を超えました。

今後、総会・懇親会以外でもイベントや活動を企画し、会員間の交流、新潟とのつながりを深めていくことはが聯誼会の目標です。（霍）

報告 4　新潟観光プロモーション in 香港に同行

11 月 15 日（火）から 16 日（水）の２日間、新潟市主催の観光プロモーションが香港にて行われました。プロモーションには、木村勇一副市長や新潟県内の多くの旅行関係企業が参加し、オール新潟で PR に臨みました。

11 月 15 日は旅行社訪問、16 日は「新潟酒・食ツーリズム商談会」と題した観光商談会が行われました。

香港の訪日観光業界は成熟期に入り、訪日観光客の８割がリピーター、５割以上が４回以上も日本を訪れているそうです。東京、京都、大阪といった日本の主要都市をすでに旅行し終えた観光客をいかに呼び込めるかが、各地方都市の喫緊の課題となっています。

旅行社訪問の様子

今やインターネットで旅行情報を手に入れ、自分で飛行機やホテルを手配できる時代です。かつて旅行の定番であった団体旅行が個人旅行へ取って代わられている中、各旅行社は差別化を図りながら、より魅力的な商品で顧客を集客しようとしています。

新潟が観光客にとっても旅行社にとっても、次なる新たな目的地となるよう、関係各所が努力を続けています。

新潟酒・食ツーリズム商談会の様子

「新潟酒・食ツーリズム商談会」と同日、同会場にて新潟県酒造組合主催で開催された「Niigata Sake Festival」（ミニ酒の陣）には、20 代から 40 代を中心とした若者 400 名余りが来場し、大変な賑わいを見せていました。開催は今年で 4 回目を迎え、年々来場者数が増えているとのこと。やはり、新潟自慢の「酒」、そして「食」が多くの観光客を呼び寄せる重要なコンテンツとなりそうです。（大泉）

報告 5　新潟紹介イベント「日本語サロン・新潟の旅」が開催

11 月 20 日（日）10 時半から、中国人民大学で新潟紹介イベント「日本語サロン・新潟の旅」が開催されました。開催は中国国際放送局（CRI）日本語放送・中国人民大学桜花社（日本語学習サークル　代表李志淵さん）・自治体国際化協会北京事務所の共催によるものです。当日は凍えるような天気の中にもかかわらず、40 名の学生の出席がありました。司会は日本語学科 2 年生の王可心さんで、日本語学習歴 1 年にもかかわらずしっかりした日本語が印象的でした。内容は中国国際放送局王小燕さんの CRI 日本語放送の紹介、自治体国際化協会永江兆徳さんの協会の業務紹介の後、神田から新潟市の名前の由来と正しい読み方（XINXISHI）、新潟市の農業の水との格闘、新潟の清酒が美味しい理由、湊町新潟の歴史などについて話をさせていただきました。また、引き続き、中国国際放送局梅田謙さんからの新潟県全体の紹介、新潟に関するクイズなどがあり、当初予定した 2 時間を超える盛況でした。最後に参加者全員にお土産として、新潟市のキャラクターである笹団五郎、花野小町のイラストが入った附箋とクッキーをプレゼントしました。なお、クッキーは新潟県柏崎市に本社があるブルボン製菓北京事務所の提供によるものです。（神田）

サロンの様子

神田所長から新潟の紹介

報告 6　天皇誕生日祝賀レセプションに参加

12 月 23 日の天皇誕生日を記念して、11 月 22 日（火）、北京の日本大使館公邸に於いて天皇誕生日祝賀レセプションが行われ、北京事務所は展示ブースを出展しました。

昨年に引き続き新潟市・新潟県が一体となったブース展開が可能であったため、市・県の観光紹介と中国で製造している亀田製菓のお菓子の提供、燕三条の洋食器の展示やネットでの通信販売の PR を行いました。当日は、寒いものの好天に恵まれ、終了時間いっぱいまで来場者が途切れることがなく盛況の内に終了しました。

北京に事務所がある札幌市、沖縄県の他、福島県上海事務所など九つの自治体事務所が観光・食品・地方自治体ゾーンに出展し、それぞれの地域の特色を競い合っていました。なお、当日の来場者は。中日の招待客に加えて各国大使館関係者など 1,241 名とのことでした。（神田）

新潟県ブースの様子

新潟市ブースの様子

西園寺　一晃先生の　中国レポート　No. 57　２０１６年１１月３０日

「光陰似箭」（光陰矢の如し）。早いもので今年もあとわずかになった。冷戦の崩壊以後、新たな秩序を模索しつつも、世界は不安定なまま推移している。今年はテロが脅威を増し、国境を超えて世界に拡散した。経済的には、世界経済が停滞の域を脱することができず、明るい兆しがなかなか見えてこない１年であった。グローバル化が進む中で、一国主義、排他主義、保護貿易主義が世界で蔓延しつつある。米国におけるトランプの登場はまさにその表れだろう。

トランプの登場は中国にとっても衝撃的な出来事であった。トランプ勝利の当初、北京の一般市民の反応は悪いものではなかった。それは決して深く考えた上での反応ではなく、「番狂わせ」、「奇跡」が起きたことに対する野次馬的心地良さであったかもしれない。一方で、インテリの多くは顔をしかめていた。特に経済官僚、学者、輸出産業の幹部は危機感を抱いた。中国にとって、米国は第１の輸出相手国である。その米国がアンチグローバリゼーションの立場から保護貿易主義をとれば、中国の対米輸出は大きな痛手を被ることになる。

【筆者プロフィール】
西園寺　一晃（さいおんじ　かずてる）氏
１９４４年生まれ
- 明治の元勲・公爵・首相・枢密院議長である西園寺公望氏を曾祖父に持つ。
- 西園寺公一（きんかず）氏（第一回参議院議員・日中文化交流協会常任理事）の長男。
- 北京大学経済学部卒業
- 朝日新聞社に在籍中は，日中関係の調査研究室長などを歴任。退職後も中国問題の調査、研究にあたる。
- 現在工学院大学客員教授，北京大学客員教授，伝媒大学客員教授，北京城市大学客員教授

しかし、中国にとってトランプの登場は悪い面ばかりではないと考える学者も多い。経済学者は顔を顰めるが、政治学者はそうとは限らない。ある政治学者は「トランプはビジネスマンで、物事をコスト計算で判断する。オバマのアジアへの関与強化、米日で中国封じ込めというやり方は、米国にとって大きなコストがかかる。もしトランプがコスト計算をするなら、米日による中国封じ込め戦略を修正するかもしれない」と言っていた。また別の学者は「貿易面で米中の対立が先鋭化する可能性があるが、その一方で米国のＴＰＰからの離脱は、中国にとって悪いことではない。ＴＰＰは中国排除という政治的一面を持っているからだ」と話していた。

ここ数年、ＴＰＰばかりが話題となり、中国が力を入れてきた地域経済連携の影が薄くなっていた。それは東アジア地域包括的経済連携（Regional Comprehensive Economic Partnership)、略称「ＲＣＥＰ」である。これはＡＳＥＡＮ１０ヶ国、日本、中国、韓国、インド、オーストラリア、ニュージーランドの１６ヶ国からなる、世界人口の約半分、４割近いＧＤＰを占める世界最大の地域経済連携構想である。この構想には米国は入っていない。この構想が息を吹き返せば、アジアにおける中国の存在感はさらに強まり、逆に米国の影響力が弱まることは必至だ。

オバマやクリントンについて、中国の多くの人は鬱陶しく思っている。それは何かにつけ「人権」、「民主」を振りかざして中国に迫ってくるからだ。民主、共和両党の大統領候補予備選が行われている時、多くの学者は「最も手ごわいのはクリントンだ」と言っていた。クリントンになったら、おそらく米国の「アジア関与」はさらに強まったであろう。米国の対日重要性は一段と高まり、日米の戦略的結合は強化されたはずである。これは中国にとっては脅威である。トランプになり、米国が内向きとなった場合、東シナ海、南シナ海を含むアジアへの関与はこれまでより弱まる可能性がある。それは中国のアジアにおける影響力が増し、中国の対外進出が加速することにつながる。しかし、トランプが乱暴な形で、例えば露骨な軍事行動で中国に対して出てくる可能性も、中国の指導者の頭にはちらついているはずだ。オバマやクリントンの場合は、手強いには違いないが、行動は予測可能であった。また、どんなに対立が激しくなっても「米中戦わず」というコンセンサスはあった。中国が神経を尖らす台湾問題についても、これまで米国は「台湾の独立を認めず、中国の武力統合も認めず」という立場を堅持してきた。ところがトランプの場合は全く予測不能で、あらゆる可能性を考えないとならない。

トランプ評について、共産党や政府幹部の口は重い。様々なことを予測しながら、じっと見守っているのだろう。今の時点で、中国にとって最も好ましいのは、アジアにおいて米国を排除して中国が支配権を打ち立てることではない。そんなことは今の中国の実力からして不可能だということは誰でも知っている。中国の本音は、アジアで米国と覇権争いはしたくないのだ。では好ましい状況はと言えば、米中が「新しい大国関係」を築き、米中が共同でアジアを取り仕切るということである。オバマは米中の「新しい大国関係」構築を事実上拒否してきた。トランプがどう考えるか、中国にとって最大の関心事だ。

中国だけでなく、どの国も果たしてトランプは何をやるのか、予測不能のままじっと見守っている。日本だけ、トランプが当選すると安倍首相が飛んで行って会談を行った。まだ就任もしていない次期大統領に首脳が会い、会談するのは外交上異例の事である。このことが吉と出るか凶と出るかわからないが、少なくともＴＰＰ離脱を思い留ませる説得は失敗に終わり、日本は梯子を外された格好となった。中国では、ここ数年の「日米一体」傾向に警戒感を強めていたが、今後の日米関係の変化にも大きな関心が集まっている。ある日本研究者は「安倍政権の日米同盟強化をテコとした中国封じ込め戦略は、おそらくトランプの登場で修正を余儀なくされるだろう。そうなれば日本の対中政策も修正を迫られることになる」と言っていた。

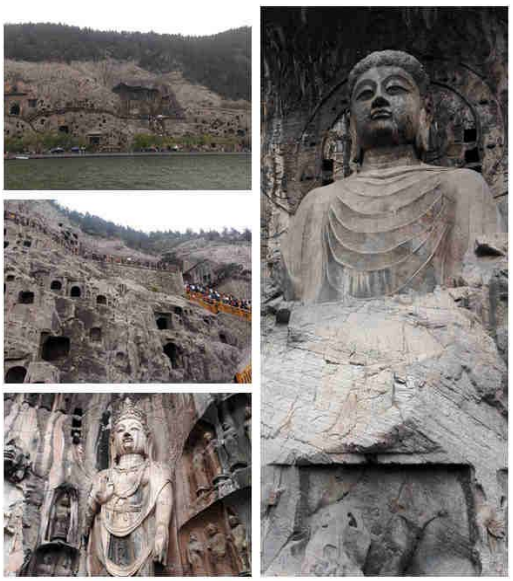
北京市民の間でも、当初の「トランプ、面白いではないか」という気分から、何をやるかわからない不気味さを感じる人が多くなった。ある友人は「まあ、選挙中、当選時、大統領就任後では当然言動は変わるだろうが、全くわからないのが不気味だ」と言っていた。

中国にとって「トランプ現象」が世界に蔓延することは脅威だ。改革開放により、中国は成長を遂げてきたのであり、輸出は大きな牽引力となった。その意味でグローバル化は追い風となった。中国の改革と発展にとって、自由貿易は今後ますます不可欠になってくる。中国の中長期的な経済戦略である「一帯一路」（新シルクロード経済圏構想）が成功するには、世界がより開放的になることが必要である。中国がこの「一帯一路」実現のために設立したのが「アジアインフラ投資銀行」（ＡＩＩＢ）である。当初国際社会には、参加するのはせいぜいアジアの１０数ヶ国だという厳しい見方もあった。しかしフタを開けてみると、日本が主導するアジア開発銀行（ＡＤＢ）の６４ヶ国には及ばなかったが、５７ヶ国の参加があった。さらに現在３０ヶ国の参加申請があるという。２０１７年には参加国が８０を超えるだろう。日米が予想しなかったのは、Ｇ７の英仏独伊まで参加したことであった。トランプの登場がこの中国の経済戦略に障害となるのかどうか、中国としては気が気でないところである。

世界はまだ大統領に就任もしていないトランプに振り回されているが、中国とて同じである。経済面だけでなく、場合によっては対米戦略、対日政策を含む世界戦略を練り直さなければならないかもしれないのだ。（止）

北京スタッフ便り　深秋の週末　北京郊外の龍泉寺巡り

今年の春、中日両国が共同で撮影・制作し、2008 年日本で初回放送された番組 NHK スペシャル「敦煌莫高窟　美の全貌」を見ました。敦煌莫高窟が発掘されて以来、史上初のハイビジョン撮影だったとのこと。この番組を見て、今まで敦煌莫高窟の名称と写真くらいしか知らなかった私は初めて莫高窟の仏教に関する歴史をたくさん聞き、それらの洞窟の物語と美に魅了され、すぐ羽をつけて飛んで行きたくなりました。しかし、北京から敦煌莫高窟までの移動はけっこうな時間がかかるため、清明節三連休を利用してさっそく中国三大仏教石窟の一つである洛陽龍門石窟に行きました。



龍門石窟　右：高さ 17.14mの盧舎那大仏

不思議なことに、龍門石窟を訪れた後、仏教遺跡を訪れる足は止まることがなく、中国最古の仏教寺院である洛陽白馬寺と武術で有名な嵩山少林寺を次々と巡りました。その後、お寺それぞれの歴史、物語、現状に好奇心を持ち、お寺巡りが好きになりました。

中国最古の仏教寺院洛陽白馬寺　右：空海像

嵩山少林寺　下：塔溝武術学校の生徒たち

11 月 19 日、北京初雪の前日、珍しい青空の好天気に恵まれ、私は北京の中心部から 30 キロ余り離れた山々が連なる西方の鳳凰嶺自然風景区にある龍泉寺に向かいました。龍泉寺は、1500 年前の遼の時代に創建され、2004 年に現在の住職学誠法師に再建されました。

龍泉寺は山の斜面に建てられていて、お寺とつながる登山コースが整えてられています。登山の途中、仏像が彫られている洞窟がいくつかあります。昔の僧侶が山の中で修行や最後に円寂した場所だそうです。寺院の中は、1000 年余りの歴史を持つ石橋と銀杏の木が有名な見どころですが、今、もっと有名なのは中国初のロボット僧・賢二です。ロボット僧賢二はアニメ・マンガ版のキャラクター賢二に基づいて開発され、天然ボケに見えますが、読経のほか、人間と簡単な対話もできます。今年の 4 月、龍泉寺は賢二を開発したことによってネットで大きな話題となり、北京で「最も高い研究・開発の実力を持つ寺」と称されています。

龍泉寺　右上：千年以上の銀杏の木

龍泉寺のロボット僧　賢二

僧侶と言うと、一日三食精進料理を食べて座禅読経をしたり伝統法事をしたりするイメージが浮かぶでしょう。科学研究やハイテクなどと関係がないはずなのに、龍泉寺には、北京大学、清華大学等名門大学出身の僧侶が数人います。龍泉寺でボランティア活動をや

りながら、出家して僧侶になった高学歴者は珍しくありません。このような僧侶たちは座禅読経以外で、自分の得意な専門知識を生かして龍泉寺の日常を変えていきます。

龍泉寺には、IT チームやアニメーションチームだけでなく、翻訳チームもあるそうです。住職の学誠法師の公式微博アカウントはなんと八カ国語で発信されていて、フォロアーは現在 65 万人を超えています。そんなに有能な方々が僧侶になったことについてもったいないと思う人が多いかもしれませんが、どんなに輝いた人の一生も、永遠に続く時の流れの中のほんの一瞬のことでしかありません。形式や場所を問わず、心について自分にふさわしい道を選び、今を生きて美しく輝けば十分だと思います。

『涅槃経』によると、「一切衆生皆有仏性」。すべての生きとし生けるものは、すべて仏性を有するということです。私は仏教徒ではありませんが、人生の奥深い哲理が含まれている仏経の教えに救われることが時々あります。

お寺巡りの旅、これからも続けていきます。（鞠）

■■お知らせ■■

「ビジネス支援サービス」をご活用ください。

新潟市の中小企業、団体等が北京市内で経済活動を行うに当たり、様々な支援を行っています。お気軽にお問い合せください。詳しくはこちらから

http://city.niigata.org.cn/business_support_service.htm